

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

|       |     |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 福島県 |
|-------|-----|

学校の概要(平成15年4月現在)

|     |                 |     |     |      |     |     |
|-----|-----------------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 福島県伊達郡伊達町立伊達中学校 |     |     |      |     |     |
| 学 年 | 1年              | 2年  | 3年  | 特殊学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数 | 4               | 3   | 4   | 2    | 13  | 25  |
| 生徒数 | 113             | 107 | 133 | 3    | 356 |     |

研究の概要

1. 研究主題

|                           |
|---------------------------|
| 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 |
|---------------------------|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生・英語<br/>会話を通して英語に興味関心を持たせ、基礎学力の向上を図るため</li> <li>・ 2年生・数学<br/>生徒にとって、図形の証明で個人差が激しくなるため</li> </ul> |
|--|

(2) 年次ごとの計画

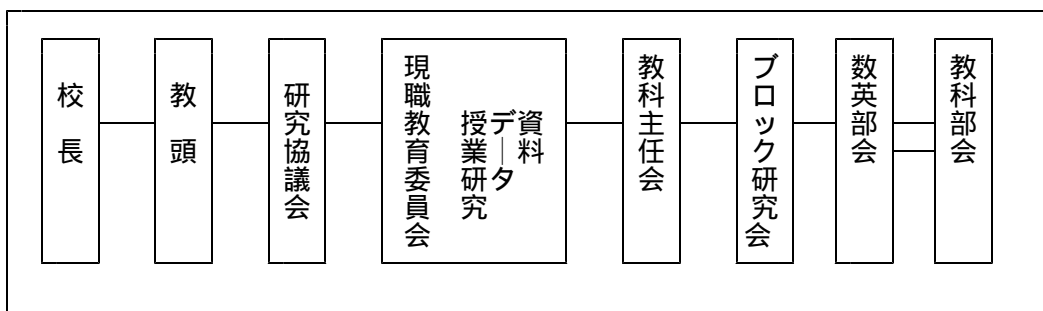
|        |   |
|--------|---|
| 平成14年度 | <p>テーマ<br/>個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善<br/>研究の見通し(仮説)<br/>TTや習熟度別学習により、個に応じた指導を行えば学力の向上を図れるであろう。</p> <p>研究の内容・方法<br/>・ 英語科によるTT指導体制の確立、数学科における習熟度別学習指導体制の確立<br/>・ 指導体制をめぐる諸問題の洗い出しと対策</p> |
|--------|---|

|        |  |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>テーマ<br/>発展的学習を取り入れた個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善<br/>研究の見通し<br/>昨年度の指導方法、指導体制を改善し、発展的学習を取り入れていけば、基礎学力の向上が図られるであろう。</p> <p>研究の内容・方法<br/>・ 指導方法・指導体制について、昨年度の課題としてあげられたものを解決していく。<br/>・ 個に応じた指導を実践していくための指導方法に工夫を加える。<br/>・ 個に応じた発展的学習はどうあるべきか。</p> |
|--------|--|

|        |  |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>テーマ<br/>発展的学習を取り入れた個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善<br/>研究の見通し<br/>前年度の発展的学習のための教材を開発し、個に応じた指導を進めれば、基礎学力の向上が期待できるであろう。</p> <p>研究の内容・方法<br/>・ 個に応じた発展的学習を取り入れた授業の工夫<br/>・ 発展的学習の教材の開発</p> |
|--------|--|

(3) 研究推進体制

現職教育委員会（荒哲也校長、齋藤四郎教頭、八巻和浩、齋藤茂男、尾形健三、小野京子）



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<数学科>

通常の一斉指導と習熟度別コース別学習を比較したアンケートの結果より

勉強しやすい 88%（基礎コース） 95%（応用コース）

よくわかるようになった 96%（基礎） 100%（応用）

もっと勉強したい 79%（基礎） 93%（応用）

以上の結果より、習熟度別学習により、ほとんどの生徒において、理解が深まり、学習意欲も高まったことがわかる。

<英語科>

通常の教師1人による指導とTTによる授業を比較したアンケートの結果より

よくわかるようになった 61%

もっと勉強したい 62%

以上の結果より、多くの生徒において理解が深まり、学習意欲も向上したことがわかる。

2. 今後の課題

<数学科>

アンケートの結果を見ると、基礎コースの生徒の意識の低さが見られる。特に、「授業が待ち遠しいか」という問いに対して、応用コースでは72%の生徒が肯定的に答えているが、基礎コースでは、41%と半数を下回っている。今後は補充的学習などを通して、下位生徒の苦手意識の克服を図っていきたい。

<英語科>

アンケートの結果を見ると、TTの授業を肯定的に受け止めている生徒はそれほど多くなかった。生徒にとって効果的な指導になるよう、指導法の工夫や教材の開発を進めたい。

学力把握のための学校としての取組

・定期テスト

- 年5回、1学期中間（6月初旬） 期末（6月下旬）
- 2学期中間（10月初旬） 期末（11月下旬）
- 3学期末（2月中旬）

・標準学力検査（NRT）

- 年1回（2月下旬、第2学年のみ数学と英語を1月下旬に実施）

